ウメモト インフォメーション

２０21年　７　月　９　日　　担当　小松

原油先物、3日続落　OPECプラス協議決裂で不透明感

［シンガポール　８日　ロイター］ - アジア時間の原油先物は３日続落。石油輸出国機構（ＯＰＥＣ）にロシアなど非加盟産油国を加えた「ＯＰＥＣプラス」の協議決裂を受けて、協調減産が打ち切られ、供給増加につながるのではないかとの懸念が浮上している。

０１５８ＧＭＴ（日本時間午前１０時５８分）現在、北海ブレント原油先物は０．４３ドル（０．６％）安の１バレル＝７３ドル。ＷＴＩ（ウエスト・テキサス・インターミディエート）先物は０．５１ドル（０．７％）安の７１．６９ドル。

北海ブレントは、ＯＰＥＣプラスの協議決裂後の５日終値から約５．３％値下がりしている。協議では、サウジアラビアとアラブ首長国連邦（ＵＡＥ）が対立。関係筋によると、ロシアが仲介に動いている。

ただ、米石油在庫の大幅な減少が一定の支援材料となっている。

市場筋によると、米石油協会（ＡＰＩ）がまとめた２日までの週の米石油在庫は８００万バレル減少した。ロイターがまとめた市場予想は４００万バレル減だった。

米エネルギー情報局（ＥＩＡ）は７日、２０２１年の米原油生産量は前年比日量２１万バレル減の１１１０万バレルになるとの見通しを示した。前月予想は２３万バレル減だった。

新型コロナウイルスの感染拡大も、懸念材料となっている。日本政府は、東京都について、感染再拡大を受けて緊急事態宣言の再発令に踏み切る。韓国の新規感染者は過去最多を記録した。

ウメモト インフォメーション

２０21年　７　月　８　日　　担当　小松

サウジとUAE対立緩和、ロシアが調整　OPECプラス増産で

［モスクワ／ロンドン　　７日　ロイター］ - サウジアラビアとアラブ首長国連邦（ＵＡＥ）の対立緩和に向けた取り組みをロシアが主導している。石油輸出国機構（ＯＰＥＣ）にロシアなど非加盟産油国を加えた「ＯＰＥＣプラス」 が、今後数カ月間の原油増産で合意を取り付けるためだ。ＯＰＥＣプラスの関係筋３人が話した。ただ次回会合の日程は依然決まっていない。

サウジとＵＡＥは先週、原油増産案を巡り対立した。両国の衝突は珍しい。ＯＰＥＣプラスは数日間続いていた増産協議の中断を余儀なくされた。

関係筋によると、増産を目指すロシアは、合意への道を見いだすためにサウジとＵＡＥが交渉を再開するように根回ししている。ロシアはサウジとＵＡＥ双方と強い政治・経済的関係を持つ。

ロシア側の関係筋は「解決策を見いだす時間はある。産油国が来週会合を開き、合意できることを望む」と話した。

その他２人の関係筋によると、ＯＰＥＣ加盟国のクウェートも両国の溝を埋めるために尽力している。

別の関係筋２人は、交渉に進展はなく、会合の新たな日程も出ていないと話した。

ウメモト インフォメーション

２０２1年　７　月　９　日　　担当　小松

産油国が負う価格安定の責任

石油輸出国機構（OPEC）と、ロシアなどOPECに加盟しない産油国で構成する「OPECプラス」の閣僚協議が決裂し、8月以降の生産量を決めることができなかった。

市場では供給不足が強まるとの懸念から、米原油先物が一時、約6年7カ月ぶりの高値をつけた。産油国の足並みの乱れによる石油市場の混乱は、コロナ禍からの経済回復を遅らせる要因となりかねず、警戒が必要だ。

閣僚協議ではサウジアラビアやロシアを中心に、2020年から続けてきた協調減産について、減産幅の段階的な縮小と、22年春までとする減産の終了時期を22年末まで延ばす案を検討した。

しかし、OPECの有力構成国の一つであるアラブ首長国連邦（UAE）が減産延長に反対し、合意できなかった。自国の生産量の基準が実態より少ないとして引き上げを求めたためだ。

コロナ禍で落ち込んだ原油需要は回復基調にある。国際エネルギー機関（IEA）は、22年には危機前の水準に回復すると予想する。OPECプラスの協調減産の効果もあり、世界の需要は足元で供給を上回っている。

一方、コロナ危機と脱炭素の潮流を受けて、油田開発への投資は落ち込んでいる。供給不足が長引けば、一段の価格上昇を招きかねない。

原油高は暮らしを圧迫し、製造業のコストを押し上げる。インフレ懸念も強まる。コロナ禍からの経済回復の足かせとなる事態は回避しなければならない。

OPECは1973年の第1次石油危機で石油を武器として使った。近年は生産国と消費国双方が受け入れられる、安定した石油価格が需要を拡大させるとの判断から、生産量を増減させることで市場の調整役を務めてきた。

長期で見れば、OPECが結束を失い、産油国が勝手に増産に走れば、原油価格は暴落する懸念もある。市場安定に果たす責任を忘れないでほしい。

引用記事　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２1年　７　月　９　日　　担当　小松

サウジ原油調整金

8月積み AL80セン上昇

8月積みサウジアラビア原油のアジア向け調整金が明らかになった。主要油種アラビアンライト（AL）は、ドバイ・オマーン原油平均価格に対しバレル2ドル70セントの上乗せで、前月比80セントの上昇となる＝別表参照。

足元の原油コストにあてはめると、バレル80セント高はトリップ換算で50～60銭の上昇にあたる。大手元売のこれまでの慣例からすると、9月第1週（2～8日）分の仕切り改定への反映が予想される。

他油種のアジア向け調整金は、超軽質のスーパーライトが前月比1ドル上昇。エキストラライト、ミディアム、ヘビーは80セントの上昇となる。

サウジアラビア調整金　（単位：ドル/バレル）

	SL	EL	AL	M	H
2020年4月	1.85	-3.10	-3.10	-4.05	-4.45
5月	-3.65	-7.40	-7.30	-7.40	-7.40
6月	-5.65	-6.50	-5.90	-5.70	-5.70
7月	1.65	0.20	0.20	0.20	-0.10
8月	2.65	1.20	1.20	1.20	0.90
9月	2.05	0.70	0.90	0.90	0.60
10月	0.55	-0.80	-0.50	-0.30	-0.30
11月	0.85	-0.60	-0.40	-0.30	-0.30
12月	0.65	-0.70	-0.50	-0.20	-0.30
2021年1月	1.25	0.10	0.30	0.35	0.10
2月	1.85	0.60	1.00	0.75	0.30
3月	1.85	0.60	1.00	0.75	0.30
4月	2.35	1.20	1.40	0.95	0.30
5月	2.55	1.60	1.80	1.45	0.80
6月	2.35	1.50	1.70	1.25	0.50
7月	2.85	1.90	1.90	1.35	0.40
8月	3.85	2.70	2.70	2.15	1.20

※ＳＬ＝スーパーライト、ＥＬ＝エキストラライト、
ＡＬ＝ライト、Ｍ＝ミディアム、Ｈ＝ヘビー
（注）調整金の数値：プラスは割増金、マイナス（－）は割引金

引用記事　日経新聞　燃料油脂新聞　化学工業日報　ロイター

ウメモト インフォメーション

２０２１年　７　月　９　日　　担当　小松

西松建設ら／産業廃棄物活用した流動化処理工法を開発／処理土の流動性向上

開発したペーパースラッジ混和材

西松建設と宮城大学食産業学群の北辻政文教授は、製紙工場で出るペーパースラッジが主原料の混和材と建設発生土を混ぜ、現場内で流動化処理土を製造する技術を確立した。ペーパースラッジに含まれる微細繊維などの効果で材料分離が小さく、安定した品質の流動化処理土が製造、打設できる。製紙業界で課題になっているペーパースラッジの有効活用にもつながる。

ペーパースラッジを使った流動化処理工法は処理土の流動性を高め、軽量化できる点が特長。ペーパースラッジに含まれる成分で流動化処理土内に微細空気が取り込まれ、処理土が軽量化し、流動性が向上する。ペーパースラッジ混和材を混合した流動化処理土はペーパースラッジに含まれる微細繊維により材料分離しにくくなり、流動化処理土の品質を安定させる。

細粒分の少ない砂質土を原料土とした流動化処理土の品質向上を目的に、ペーパースラッジ混和材を配合した流動化処理土の室内配合試験と屋外実証試験を実施した。ペーパースラッジ混和材を流動化処理土に混合することで流動化処理土内に微細な空気が連行され、流動性が向上することを確認した。

屋外実証試験では、砂質土を原料土とした流動化処理土に対してペーパースラッジ混和材を添加すると材料分離抵抗性が向上した。品質の安定した流動化処理土を製造できることを確認した。

ペーパースラッジは製紙産業で発生する産業廃棄物の約７割を占めるとされ、発生抑制や有効活用が大きな課題だった。流動化処理土への活用で環境負荷の低減に役立つ。

引用記事　　日経新聞　　日刊建設工業　　化学工業日報　　燃料油脂新聞